

# 元気で新しい八尾のまちづくりを考える 市民懇談会(第1回)議事概要

日 時：平成 20 年 10 月 29 日（水）午後 6 時から午後 8 時頃

場 所：教育センター集会室

出席者：委員 20 人（欠席 0 人）、事務局 11 人(内コンサルタント 3 人)

## 1. 開会

- ・事務局から、写真撮影と録音についての説明があり、了承されました。また、会議の公開について説明があり、会議と会議資料を公開することとなりました。

## 2. 市長挨拶

- ・田中市長から挨拶がありました。

- ・平成 23 年度からの新しい総合計画を、市民の皆様のご意見や思いを聞きながら策定していくため、「元気で新しい八尾のまちづくりを考える市民懇談会」を開催させていただくこととなりました。市民委員の皆様には、小論文をご提出いただき審査をさせていただきました。多数の申し込みがあり、残念ながらご参加いただけない方もおられます。ご参加いただいた皆様には活発にご議論いただき、貴重なご意見や思いを新しい総合計画に反映していきたいと思っております。
- ・本市の財政状況は厳しく、基金を取り崩さないと市政が運営できない状況にあります。三位一体の改革により、税収が落ち込んでも地方交付税が増えないため、厳しい財政状況は今後とも続くと思っております。行政運営は大変ですが、「税金は1円たりとも無駄にはしない」、「市役所は市民にとって親切丁寧でなければならない」と思っております。この会議についても、市民に対して情報公開をきちんとしていきたいと思っております。
- ・自治体経営においては、厳しい財政状況のもと、“あれもこれも”ということではできず、“あれかこれか”という判断を迫られています。これから八尾市がめざすべき方向性を検討していただきたいと思っております。
- ・新しい総合計画では、地域別計画を入れたいと考えています。本市は、自然や文化を感じる山手の地域や商業や賑わいの駅前の地域、工場が多い地域など様々な地域があります。ものづくりにおいては、東大阪市を抜き、大阪府下で3番目の規模となりました。これらが上手く調和した住みよいまちをつくっていかなくてはならないと思っております。
- ・各地域や様々な分野で活動されている方にご参加いただいております、それぞれの思いのたけを語っていただきながら、総合計画を作り上げていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

## 3. 委員委嘱

- ・委員に委嘱状が渡されました。

#### 4. 委員紹介

- ・事務局から委員紹介がありました。

#### 5. 座長、副座長選出

- ・事務局から、座長を大阪商業大学教授の初谷委員に、副座長を関西福祉科学大学教授の斉藤委員にお願いしたいとの提案があり、拍手でもって決定しました。
- ・座長、副座長からご挨拶がありました。

(初谷座長)

- ・ただいま、皆様のご承認をいただき、座長を務めさせていただくことになりました。市長からのお話にもありましたように、この市民懇談会で活発な意見交換ができるよう務めてまいりたいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。

(斉藤副座長)

- ・皆様のご承認をいただき副座長という重責を仰せつかりました。よろしく願いいたします。八尾は便利で活発なまちとお聞きしておりますので、皆様からの活発な意見を期待します。初谷座長と共に円滑な運営を心掛けたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

#### 6. 議事

##### 1) 八尾市第5次総合計画策定の取り組み及び市民懇談会の活動について

- ・資料4、資料5について事務局から説明があり、質疑がありました。

・(委員発言)

必要な資料については、提供していただけるのでしょうか。施策を実施する際の予算等を示していただきたい。

##### 2) 意見交換

- ・初谷座長の進行のもと、「①八尾のまちの際立った特色と思われること」、「②これからの時代の環境変化を踏まえて今後大事になってくるとと思われること」について、市民委員に順にご発言いただきました。

- ・ NPOなどで活動している。無条件に八尾が好きだという人、八尾のまちをよくしたいという熱意のある人が多いのが一番の特色だと思う。これからのまちづくりでは市民の意見も聞いて、私たちのまちにあったかたちづくりや仕組みづくりを柔軟に進めていくことが必要である。JR八尾駅周辺のまちづくりの活動を始めて10年以上がたっているが、整備の目処がたってよかった。ボランティアとして努力した甲斐があったと思えるまちにしていきたいと思う。行政と対立するのではなく、行政と喧々諤々やりながらも、一緒になってやっていきたいと思う。
- ・ 八尾市は、大阪という大都市に隣接していながら、山、川、池、里山など自然に囲まれた風光明媚な地域であり、歴史に非常に富んだまちでもある。交通の便がよく、将来的には新大阪駅まで直接行けるようになる。ところが、問題は、近いため八尾

市でやれることでも大阪市に流れていくことである。

都市工学的には人口が 20~30 万人ぐらいの規模が効率がよいとされている。職住近接のまちであり、趣味やボランティアに取り組みやすいまちだと思う。ものづくりが盛んであり、そうした産業との連携により省エネや省資源にも取り組みやすいのではないと思う。八尾は、大きな車で走り回るようなまちではなく、これからは電気自動車などが走るようなまちになればと思う。歴史や自然を再認識しながら、持続可能な社会づくりに取り組めればと思う。

- ・ 八尾は歴史的な史跡が多く自然が豊かである。自然災害が少なく住みやすい。郷土芸能の河内音頭を守っていかなくてはならないと思う。子どもたちにも教えることが必要である。高齢者の方にも生きがいとして踊っていただきたい。八尾はボランティアの力が強いと思う。八尾まつりにも多数参加者がある。予算がなければボランティアで盛り上げていけばよい。地域の隅々で、河内音頭がいつでも聞こえるようなまちになればと思う。また、拠点となる定席ができればと思う。
- ・ 八尾は大阪市内に近く比較的便利で住みやすいまちである。しかし、遊ぶところが市内に少ないと思う。将来像としては、「子どもを日本で一番育てやすいまち」になってほしいと思う。妊婦の搬送拒否や保育所待機児童のないまち、小学生までは医療費がゼロ、など何か目玉となる施策があれば、八尾に住んで子どもを産みたい、育てたいということになるのではないか。市民も子どものためであれば我慢してくれるのではないか。子どもの頃から住んでいるが、放課後昔は学校の校庭などで伸び伸びと育つことができたように思う。大人たちが見てあげることで、子ども達が安心して外で遊べるようになればと思う。ボランティアとして学校の手伝いをしたことがあるが、先生達が楽しそうでないのが気がかかった。子どもたちが楽しくないと、住み続けたいと思うようにはならないと思う。“子どもを育てやすいまち”と胸を張れるようになればと思う。
- ・ 八尾の良い所は“元気”があることだと思う。ものづくりのまちであると同時に、河内音頭などの文化もある。八尾は河内の中心だと思う。一方、犯罪が多いのが課題。日本には資源がないため、知識と文化を活かしていく必要がある。政府が外国人観光客の誘致に力を入れていることから、八尾の素晴らしい民俗芸能を海外の皆さんに見ていただきたいと思う。そうすることで地域にお金が落ちるようにもなると思う。
- ・ 八尾に住んで 40~50 年になるが、非常に住みやすいまちだと思う。気さくな人が多く、近所での助け合いもある。今後は観光に力を入れていくことが必要である。八尾市には観光の担当部署がなく、観光協会や観光ボランティアガイド協会もない。観光を推進していく体制づくりが必要である。観光はまちづくりと関連する。文化性を高めたり、自然を活用するなど地域資源をもっと掘り起こす必要がある。定住構想だけでなく、集客都市構想を考える必要がある。観光庁が発足することもあり観光はまちづくりと関連するところがあると思う。観光で八尾のイメージアップが図れるとよい。

- ・ 八尾は、商業、工業、農業があり、自然とバランスの取れた地域資源が沢山あるまちだと思う。少し仕事を休んでいた時に、子どもの保育所や、地域の方々が私を温かく迎えてくださったために、再び働けるようになったという経験があり、温かみ、人情のあるまちだと感じている。子どもの減少や産業の低迷、町並みに少し元気がなくなってきたと感じることなどの環境変化があるが、地域資源を活かしたまちづくり、産業づくりが必要である。私たちの子どもたちの世代が、この地域で働けるまちにしていきたいと思う。
- ・ 環境関連の NPO で活動している。近隣都市の方から「八尾はええなあ」と言われる。30 万都市の利便性がありながら小回りも利く。市民活動をしていても行政の顔がみえる。市民の意見も反映しやすいのではないかと。八尾に住んでいる理由として、“人とのつながり”があることがあげられる。他都市ではこれだけの“つながり”はつくれないと思う。市民活動や地域活動で市民全員がたくさんの人と“つながり”を作れるような仕組みづくりが必要と思う。たくさん“つながり”ができると八尾から離れられなくなる。
- ・ 都心部の方からみると、高安山などの自然があり八尾は魅力的なまちだと思う。自分が子どものころは田んぼや池で、今から思うと危ない遊びをしていた。建築現場ではおじさんに棒切れをもらって遊んでいた。今の子どもたちに比べると、自分の子どもの頃はよかったと思う。今の八尾は、それでも自然は豊かであり、交通の利便性もよい。観光といえば八尾空港もあり、日本で最初にできたケーブルカーもある。これが自慢である。八尾に住んでいるとほっとするし、良いまちだと思う。これからのまちづくりとしては、生駒山系には活断層があることから、災害対策やライフラインの確保が重要である。府の中部広域防災拠点の活用も考えられる。
- ・ 八尾が大好きで事務所を八尾に構えている。元気な人が多く、人のつながりが多いのが八尾の特徴だと思う。“八尾が大好き”と言える人がたくさんいることがすごい。私自身あまり子育てには関わらなかったが、子どもを育てやすかったように思う。住まいやまちづくりに関する NPO で活動しており、地域住民と地域の地図づくりをしたことがある。八尾市全体で考えることと、もう少し小さな地域単位での地域のいい特徴をもっと出していけるようなまちづくりが今後必要になっていくと思う。また、子どもをもっと育てやすいまちになると、人口増加につながると思う。
- ・ 八尾市を空から見ると、山や川があり、交通アクセスも JR、近鉄、地下鉄とそろってきている。昔は市役所周辺もほとんどが田んぼであった。そうした頃と比べると、住宅が多数建設され、公共施設などの整備も進み、バランスのとれたまちづくりができてきている。公園に関して、樹木や花が植えられているのは良いことなのだが、そのために少し見通しが悪いという意見がある。また全体的にアスファルト舗装しすぎという意見もある。ひとつのことに對して様々な意見がある。子どもの目線、お年寄りの目線などを取り入れながらまちづくりを進めていかなければならない。環境に関しては一人ひとりが少しずつ緑を増やしていくことができればと思う。また、市内の食堂で「マイ箸」を使うような取組もできるとよい。鉄道は整備されているが、JR 八尾駅の周辺はまだ整備されていない。開かずの踏み切りもあり危険

である。安全・安心のまちづくりに取り組むことが必要である。市民がボランティアなどに取り組み、より豊かでより明るくより楽しい八尾市になればよい。

- 八尾はとても住みやすいまちだと思う。特別に何かがあるわけではないが、人のつながりが豊かであり、山、川、池などがある。心合寺山古墳の施設に行くと、子ども達がプリントのようなものをもって調べていた。子ども達が放課後に過ごせるところが増えればと思う。以前は学校の校庭が開放されていたが、最近はそれができないので、小さな公園でよいので子どもが遊べる場所が増えればと思う。玉串川の桜は見事になり観光名所のようになっているが、まちなかの緑や田んぼ、畑が減ってきている。市民一人ひとりが緑を増やす取組ができればと思う。子どもたちが元気なまちにしていきたいと思う。外国人の方が増えてきている。その方たちは、八尾は住みやすいと言っているが、それは私たちに対して遠慮がちに言っているのだと思う。外国人の方も住みやすいまちにしていくことができればと思う。
- 八尾で会社経営をしている。地域に産業がないとまちは成り立たないと思い、いったい地域とはどういうところなのか、地域にどのような産業があるのかを把握するような活動をはじめた。いろんな活動に参加し、「八尾ってすごく良いところだな」と実感している。山や川、農地、商業地域、工業地域などがあり、人もたくさん住んでいるなどバランスがよい。いい所が沢山あるのだが、住んでいる市民の方は意外と知らない、理解されていないように思う。そういう啓発も含め現在は、環境や地域通貨に関わる活動もしている。問題点として、八尾の産業集積が壊れかけていることがあげられる。単に工場数が少なくなっているということだけでなく、“八尾に来たら何でもできる”という機能が失われつつあることから、加速度的に八尾の産業の力が落ちていくのではないかと心配している。そういう意味で、八尾で新しい仕事づくりをしていく必要がある。例えば、大阪や近畿で消費するものをつくることが考えられる。同時に、自然環境や観光資源など八尾の資源を再発見し、そこから新しい産業を創造していくことで八尾の経済が活性化すると思う。産業は利益の源泉であり、産業が疲弊すれば税収もおち、必要なことも出来なくなってしまう。ここをベースに発展させることで地域の活性化が雇用にもつながるし、市民活動を支えることになる。また、市民に一体感がないというのが課題である。江戸時代に住民の力が分散するように統治したと聞いたことがあるが、そういうこともあってか、小さな地域がばらばらに動くというのがあるのではないかと思う。各テーマごとにいろいろな活動をされている方はたくさんいるが、全体として一体感をもたせることが必要だと思う。例えば、鉄道は全て大阪市内と結ばれており、市内の南北の交通網が弱いということも影響しているかもしれない。行政の方でも八尾全体の統一デザインのようなものが感じられない。何かシンボルを一つ出して、それに沿って集約していくようなことをすれば観光にも役立つし、市民の一体感を高めるのにも役立つのではないか。

- ・ 八尾に来て 30 年になる。最初に八尾に来たときに「やい！ワレ！」と声をかけられてカルチャーショックを受けた。また、そのいまでも大好きなおやじさんが大雨の鉄砲水に備えて皆で土嚢を積んでいる姿を見て二度目のカルチャーショックを受けた。人のために自分のことのように取り組める人がいるというのが、八尾の良いところだと思う。先日、「八尾国際交流野遊祭」が開かれた。

八尾には約 8 千人の外国人定住者がおられ、各地の文化を紹介していただいた。生活に困窮されている外国の方もおられるが、非常に元気で楽しく「八尾国際交流野遊祭」を毎年盛り上げてくれる。八尾の市民は、外国人、日本人も含めて、お金がなくても楽しく元気であるすべを非常によく知っているのではないかと思う。一方、元気ということを考える時には、“行政的に元気ということは何か”ということを考えなければならないと思う。事業所数や従業者数の統計を見ると減少傾向にある。事業所や従業者数が減れば当然税収が減る。しかし、そういったことについて深く分析している資料は見当たらずなぜかと思う。やはり働く場所があって、地方分権といわれるなかで税収があった方がよい。八尾の産業集積が確実に減ってきている状況や中心的な産業は何なんだということに対して本気で対策を考えないと駄目だと思う。外国人の方についても給料が安いから雇うのではなく、彼らが本当に八尾に来て良かったと思える働き方をさせていただくことが必要である。また、障害者が本当に自立して働けるような職場にしていく必要がある。八尾の人って困っている人を見かけたら何とかしてあげようと動く人が多いので、その辺の指針さえ市が打ち出せば、色んな意味で面白いことができるのではないか。

- ・ 八尾で生まれ育った。自然災害は少なく、自然のなかですくすくと育ち、八尾を愛している。郷土芸能の河内音頭をしているが、後 15 年ぐらいで後継者がいなくなってしまう状況にある。河内音頭を活用してまちの活性化を進めたり、後継者の育成についても考えていただければと思う。個人の努力には限界がある。八尾河内音頭まつりをさせていただき喜んでいるが、1つの大きなイベントに予算を集中させるのではなく、小さな地域単位でのイベントにも支援をしていただければ、八尾の様々な地域が活性化していくと思う。
- ・ 10 年前に総合計画を作るときに市民からの提言を行なう活動に参加していた。その時に、江戸時代に小さな村がたくさんあったことなどを学んだ。そうした歴史的な経過があって、農業をされている方がいたり、小さくて狭いけれども自転車が通りやすい道がたくさんあるようなまちの特徴が生まれたのではないかと思う。その当時の 18 人のメンバーで活動を継続しており、29 ある小学校区をめぐり、地域の方のお話を聞いたりして地域の特色や課題などを整理・分析している。

- ・ 続いて、学識委員から、市民委員の皆さんのご発言を受けて、コメントを頂きました。

- ・ 産業や工業を専門にしている。色んな業種の産業なり工場が集積することによって保たれていた産業の集積地に空き家が増えるということは非常に大変なことだと思う。ただ数が減少すること以上に大きなことが起こっているような気がしている。また、工業・商業と住民（生活者）とのバランスの確保も課題だと思う。まずは、

多くの住民の方に、八尾の商業や工業が果たしている役割について理解していただくところからはじめないといけないと思われる。

- ご意見を伺っていて、本当に八尾は大変元気のあるまちだと思った。地域福祉を専門としており、地域の見守り活動などを研究している。地域資源として自然や芸能・文化、産業・地場産業などがあげられていたり、「八尾が大好き」な人が多いといった発言があった。地域福祉の分野でも、やはり“人”（マンパワー）が資源であり、その重要さ大事さを学生に教えている。お話を聞いていて、八尾では“マンパワー”が非常に期待できるように感じた。震災や防災の関係でも、今後は人のつながりでまちを守っていくといったことが大きな課題となっている。八尾が好きな人が大勢おられるということで、見守り活動についても協力が期待できると感じた。
- 以前、友禅の染色の仕事をしており、八尾の染色工場に来たことがある。皆さんの発言を聞いていて、支えあいや助け合いがあるなど温かいまちだと思う。研究者の視点としては、社会が不安定になってきていることから、社会学では、公共圏ではなく、親密圏での助け合いについての研究が流行っている。まちづくりを考える際には、市民と行政がどう役割を分かち合うのかということが話しあえればよいと思う。教育社会学の専門から考えていきたいと思う。この場には子どもや学生、外国人の方がおられないので、そういった立場からも発言していくことができればと思う。

- 市民委員、学識委員からのご発言の後、初谷座長からお話がありました。

- 今日お話いただいたことは、いわば“原石”のようなものであり、今後、色々な資料を読むことなどで磨かれて光を放っていくようになると思う。今一番大事だと思ったことをご発言いただいたわけで、それを基軸としながら展開、発展ができればと思う。個人的なコメントについては時間の関係もあり次回以降にさせていただく。
- 次期の総合計画では地域別計画の策定が予定されている。よくNPOと地域の地域団体との連携が課題だといわれているが、両者がコラボレーション（連携・協力）していくところに新しいまちづくりがあると思う。地域別計画の策定に関してご意見があればお聞かせください。

- 初谷座長のお話を受けて、ご意見をいただきました。

- (委員発言)

今、自治という意味を自分たちの足元を見ていくということで再確認していきたい。市民活動やボランティア活動で活躍されている方を活かして自治を進めていければよいと思う。また、文化情報などが市民に公開されれば、もっと使われるようになると思う。

- ご意見の後、初谷座長からまとめがありました。

- 地域の特徴のあるわがまちを大事にしたいという気持ちと、市全体でのまちづくりを通じて、これは大事であるという思いを、上手く絡ませながら総合計画を作り上

げていくことが必要である。地域のご意見と、私どもの懇談会の横断的な視野での提案とが上手くつながればよいと思う。

- ・ 次回お集まりいただくときには、事務局と相談して、時間を上手く使いながら、さらに多角的に意見を交わしていただけるような工夫をしたいと思う。

### 3) 今後の日程について

- ・ 事務局から今後の日程等について説明がありました。

- ・ 次回の市民懇談会は、12月25日（木）午前10時から教育センターで開催する。議題としては、第4次総合計画の総括レポートに関する説明と意見交換を予定している。
- ・ 施策別総括シートを12月上旬を目処に送付するので、“住み続けたい、住んでみたいまち八尾”の実現に向けて計画の進捗状況はどうか”、“「元気で新しいまち八尾」の実現に向けてどのような一層の取組が必要か”といった観点からご意見をいただければと思う。
- ・ 第3回の市民懇談会については、来年1月24日（土）に開催する。時間と場所については調整中であり、開催日が近づいたら改めてご案内をお送りする。

- ・ 説明の後、市民委員から資料提供の依頼方法についての質問があり、必要な資料がある場合の依頼方法について事務局で検討し、委員にお伝えすることとなりました。

### 7. 閉会

- ・ 最後に初谷座長からまとめがあり、閉会しました。

- ・ 施策別総括シートは、行政職員でも読みこなすのが大変な資料だと思う。このシートが106枚届く予定であり、大変ではあるが、積極的に果敢にチャレンジしていただきたいと思う。

以 上